

11th

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

入 選 作 品

主催 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト実行委員会
(若柳町、築館町、迫町、宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)
後援 宮城県、若柳町観光協会、築館町観光協会、迫町観光協会、
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、
河北新報社、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、岩手日報社
協賛 富士写真フィルム株式会社、宮城県写真材料商組合

入 選 者

各 賞	題	氏 名	住 所
最優秀賞 (宮 城 県 知 事 賞)	群 翔	斉 藤 幸 吉	宮城県仙台市
優 秀 賞 (宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞)	冬の伊豆沼	伊 藤 利喜雄	岩手県一関市
金 賞 (若 柳 町 長 賞)	乱 舞	庄 子 充	宮城県仙台市
金 賞 (築 館 町 長 賞)	虚空乱舞	菅 原 敏 彦	黒川郡大和町
金 賞 (迫 町 長 賞)	枯蓮暁光	伊 藤 浩	宮城県古川市
銀 賞 (若柳町観光協会会長賞)	凍りつく伊豆沼の夜明け	遠 藤 正 弘	本吉郡志津川町
銀 賞 (築館町観光協会会長賞)	曲 舞 (くせまい)	林 茂	宮城県仙台市
銀 賞 (迫町観光協会会長賞)	落 雁	佐 藤 文 昭	登米郡迫町
銀 賞 (宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞)	ギンヤンマの産卵	天 野 宗 謙	宮城県仙台市
銅 賞 (河北新報社賞)	夜明けの群翔	庄 子 光 男	宮城県仙台市
銅 賞 (読売新聞社賞)	「帰ろうかな」	阿 部 三 彦	宮城県仙台市
銅 賞 (朝日新聞社賞)	夜明の辺	鈴 木 正 一	宮城県仙台市
銅 賞 (毎日新聞社賞)	静 寂	千 葉 稔	登米郡豊里町
銅 賞 (岩手日報社賞)	日の出前	川 名 登	宮城県仙台市
入 選	ダイサギと枯れハス	木 川 安 彦	栗原郡志波姫町
入 選	夕映えの舞	栗 城 高 志	岩手県一関市
入 選	朝の光景	佐 藤 正 人	登米郡東和町
入 選	「対」	萩 野 幸 夫	栗原郡築館町
入 選	スタート	船 山 陽 一	宮城県多賀城市
入 選	帰れなかった白鳥と仲間達	二 瓶 茂	宮城県仙台市

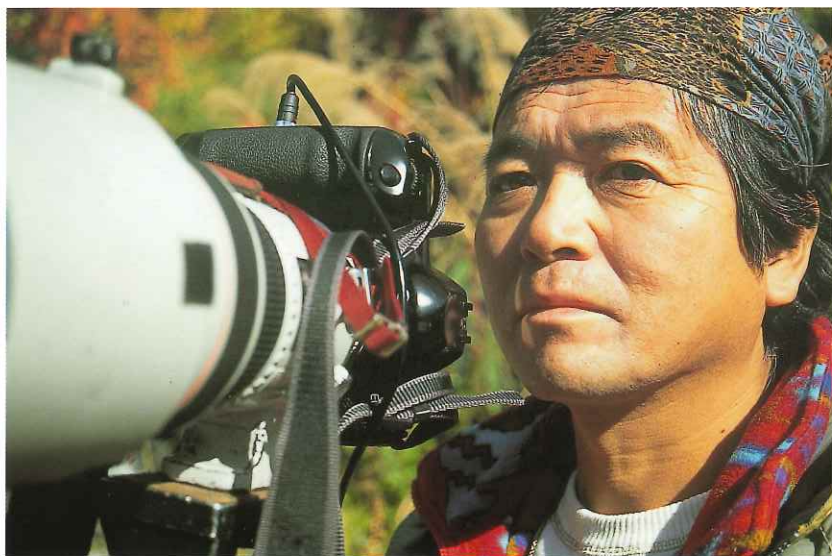
総 評

今年も伊豆沼・内沼の自然フォトコンテストの審査をさせていただきました。とりわけ、雁・カモも数多くにぎやかな写真が多かったと思います。

毎年、この沼がふるさとだと思って、帰ってくる鳥たちを保護していくことも大切だと思いますので、それを写真を通して見つめてやる、人間と共に共存する動物たちのためにこの伊豆沼・内沼の環境がいつまでも、野鳥たちにとっての楽園であることを願って、審査をさせていただきました。もちろん、撮影される方のそんな思いが画面の中にあらわれていて、それがとても良かった様に思います。

今年よく目立ったのは、大群で群翔する鳥たちの写真で、今年はいつもとより出会いが多かったのではないかと思います。多数の応募がされておりまして、昨年より少しレベルが上がっていてすばらしいと思います。また、さらに夏・秋・冬にかけて伊豆沼と伊豆沼の環境をカメラを通して丁寧に美しく見つけてあげたいと思います。

フォトコンテスト審査員 竹内 敏 信



1943年愛知県生まれ。名城大学卒業後、愛知県庁勤務を経て写真家として独立。感覚の鋭さと独特のカメラワークで、自然の映像化を極め、新しい風景写真家の旗手として活躍中。93年春、「桜」をテーマに日本原風景を追究したビジュアルな写真展を開催、話題を集めた。現在、日本写真家協会理事、自然科学写真協会理事、日本写真協会会員、日本写真芸術学会会員、日本写真芸術専門学校・現代写真研究所の各講師。

最優秀賞（宮城県知事賞）「群 翔」 齊藤 幸吉



【評】多数の野鳥たちが、一斉に飛び散った様子を非常に均密度のある画面にまとめている、湖水にいるもの、飛び上がったもの、上空にいるもの、三つの関係が非常にバランスよく撮られていて、これぞ野鳥の楽園と言うものを感じさせる画面になっております。いい瞬間をきちとしたフレーミングでおさえて、この伊豆沼・内沼の風土感を見事に出した作品になっております。

優秀賞（宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞）「冬の伊豆沼」伊藤 利喜雄

【評】雪が降って、まだまだ薄明かりの中を飛んでいく、無数の鳥たちそして雪が降ったことによって、空間が非常に静かで、静寂感のある風景の中に鳥たちのざわめきが伝わってくる様な作品で、ブルートーンと雪が降りやんだ直後の美しい状態と、その中で静かに日が昇ってくる、暮れていく、そんな伊豆沼の空気感が非常に見事に美しく捉えられている傑作だと思います。



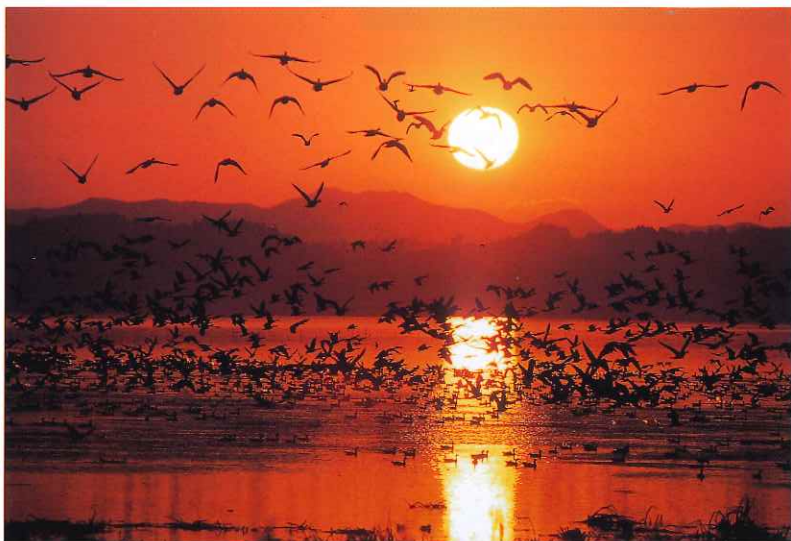


金賞（若柳町長賞）
「乱舞」
庄子 充

【評】望遠レンズを使って、飛びかう鳥たちのさなかにレンズを入れたと言う様な作品で、画面からあふれんばかりの鳥たちのざわめきが、非常にダイナミックな作品となって感じられます。飛び立った鳥がシルエットで、そして背後の沼には、まだ沼の中にいる鳥たちがあって、その奥行きも感じられるいい作品だと思います。

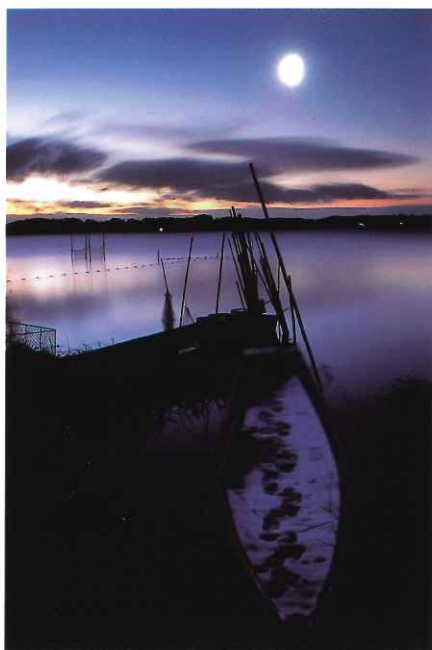
金賞（築館町長賞）
「虚空乱舞」
菅原 敏彦

【評】太陽が昇った茜色の空をバックに飛び舞う鳥たちの姿が、非常によくダイナミックに捉えられていて、太陽と湖面の輝き、背景の山、そういう伊豆沼・内沼の環境が映し出されている中で、非常に力のある作品になっています。撮影地が伊豆沼の西岸で、西岸から東の空に昇ってくる太陽を撮っている。伊豆沼が一番長く見える位置から撮っているのが、成功の原因ではないかと思います。



金賞（迫町長賞）
「枯蓮暁光」
伊藤 浩

【評】まだ枯れ蓮が沼に残っている、撮影日が秋の終わりぐらいでしょうか。10月15日になっていますが、夏の間沼を覆い尽くした蓮が枯れてくちていく、そこに冬の役者である鳥たちがやってくる。そんな世代の交代、季節の交代の様子を同時に映しとめた作品です。この写真は、丁寧なプリントをしていて写真をよく心得た人の作品です。サービスサイズで大きくするのはなく、四つ切りの美しさをよく知っている人の作品でこういう作品がもっともっと出てくるといいと思います。



銀賞（若柳町観光協会会長賞）
「凍りつく伊豆沼の夜明け」遠藤 正弘

【評】舟の上に薄い雪が積もって、舟を歩いた人の足跡が舟の中に映っています。その舟の薄雪と明け方冷え込んだ伊豆沼の様子が、非常にたて位置の画面でしっかりと捉えられています。上空には残月があって、月と曙の輝きと、岸边につながれた舟との奥行きのある関係が、安定した画面に飾られていて美しい写真になっております。

銀賞（築館町観光協会会長賞）
「曲舞(くせまい)」林 茂



【評】鷺が飛び散って飛んだ様子を高速シャッターで捉えて、それぞれの鷺が、それぞれのしぐさで飛んでいるそんな様子をフレーミングでおさえて、鳥の姿と水面に映り込んだ、鳥の白い影とが美しい作品になっていて、夕方の光でしょうか、飛び上がった鷺が斜光線で抽象的に象徴的に捉えられていて面白いと思います。



銀賞（迫町観光協会会長賞）
「落 雁」佐藤 文昭

【評】鳥たちが飛び散って飛んでいる風景は、夕焼けの茜雲でしょうか。山々と空の輝き、そして湖面の輝き、非常に静的なしなやかな美しいトーンの中に鳥たちの息づかいが感じられると言う作品で、静かに伊豆沼・内沼の風景を楽しむ、大空を飛翔する鳥たちに動きがあると言う様な作品で、落ち着いて鑑賞できる写真になっております。

銀賞（宮城県伊豆沼・内沼サンチュアリ友の会会長賞）
「ギンヤンマの産卵」天野 宗謙

【評】ギンヤンマはこうして枝の上に産卵していく、その様子を実に丁寧に丹念に撮っていて、この沼の虫たちが繰り広げられている命のドラマみたいなものが、写真を通して伝わってきます。しっかりと観察していて、興味があると思います。興味ははっきりと作品の中にあられていて、とても見事な自然観察作品になっています。



銅賞（河北新報社賞）
「夜明けの群翔」

庄子 光男



【評】伊豆沼一帯を飛びかう鳥たちの迫力ある姿を、茜色の空を背景にして捉えている、いわば晩秋の頃の湖のドラマを感じさせるのに十分な作品です。鳥たちのはばたきの音が天空を埋めつくした時、さぞかし壮観であつたろうなと感じさせる作品になっております。

銅賞（読売新聞社賞）
「帰ろうかな」

阿部 三彦



【評】帰ろかなと言う鳥たちが、どこに帰ろうかとしているのですかね、シベリアに帰ろうかと思っているのですかね、そのような意味でこのタイトルをつけたと思います。シベリアから帰って来るとはいいですね、シベリアに行くのではなく、シベリアからこちらに帰ってくる、伊豆沼からシベリアに旅をすると思つた方が楽しいと思います。太陽の光をうまく配してその光の帯の中にこの鳥を一羽配した構成が美しいと思います。

銅賞（毎日新聞社賞）
「静 寂」

千葉 稔



【評】鷺たちが休んでいる明け方でしょうか、まさに明けやらぬところで、鳥たちが休んでいる姿が実に静かである。そんな活動を始める前の野鳥たちの生態が、非常に静寂した空間の中から伝わってくる作品で、写真表現の持つ力というか、写真表現力がこのイメージを生み出してくれると思います。ブルートーンがとても美しい作品です。



銅賞（朝日新聞社賞）
「夜明の辺」

鈴木 正一

【評】沼のほとりの冬の風景ですね、湖面は凍結して沼のほとりにおかれていた舟も氷の中に入ってしまった、そんな氷の冬の冷たい風景が、明け方の空気感の中に伝わって来て、これもやはり伊豆沼・内沼の冬の風情だと感じまして情感のある美しい写真になっています。

銅賞（岩手日報社賞）
「日の出前」

川名 登



【評】日の出前に太陽が顔を見せる頃、一斉に鳥たちが大空に羽ばたきます。一斉に羽ばたいた無数の鳥たちを捉えたダイナミックな作品で、これぞ伊豆沼・内沼写真の定番ともいえる写真です。なかなかこの様なタイミングで撮れない、何度も何度も通って傑作をものにしたのだと思います。日の出前の大空を羽ばたく無数の鳥たちの姿がダイナミックに捉えられております。

入選
「ダイサギと枯れハス」 木川 安彦



【評】斜光線を受けたダイサギのラインがとてもやさしく美しいです。そのダイサギのいるハス池の空間がダイサギと言うポイントを中心にして広がっています。静かな美しい作品です。

入選
「夕映えの舞」 栗城 高志



【評】夕方の茜色に照らし出された鳥たちの舞、金色に輝く水面や白い鳥の姿が、そんな夕方のライティングによって生まれた風景が美しいと思います。これは、フィルターを使っていますね、フィルターがなければもっと美しいと思います。

入選
「朝の光景」 佐藤 正人



【評】白鳥やカモが羽ばたいて羽ばたくことによって、水しぶきが上がる、その上がった水しぶきを見事に捉えた作品です。しぶきにポイントをしばったと言うことはいいのですが、もう少し下が見せたかったです。

入選
「対」 萩野 幸夫



【評】二羽のカモが湖面にいます、そこに映り込んだ氷の間の丸い水とカモの姿がコミカルで面白い、水面の微妙なトーンが描かれているのが写真の力と言えます。なかなか力のある作品です。

入選
「スタート」 船山 陽一



【評】湖面から一斉に飛び上がろうとする鳥たちの姿を撮ったもので、ちょっとシャッターチャンスが早かったですね、もう少し後の方が鳥たちが大空に羽ばたいて良かったかもしれません。この後も撮っていると思いますが、この後はどのように撮ったのですかね、ピントが飛んでいる鳥から少しはずれています。そこが惜しいです。

入選
「帰れなかった白鳥と仲間達」 二瓶 茂

【評】夏になってこの沼に逗留する白鳥なんですね、羽が痛んだりしている鳥たちがたくさんいると思いますが、そう言う鳥たちに対する思いを込めてやさしく撮っている作品です。グリーンがもう少し美しくプリントされているともっとさえたのですが、プリントでグリーンがにごってしまったところが惜しいところです。

